

原子力規制委 東海第 2、審査加速へ 沸騰水型 4 原発と並行



東海第 2 原発の審査資料の作成状況を説明する日本原子力発電の和智信隆常務取締役 (左)=原子力規制委員会

原発の再稼働に向けた安全審査について、原子力規制委員会は 31 日、東海村白方の日本原子力発電(原電)東海第 2 原発の審査を、審査が先行する東京電力柏崎刈羽 6、7 号機(新潟県)など 4 原発と並行して進める方針を決めた。これまで東海第 2 は後発グループの一つとして審査が進められてきたが、今回の方針決定で審査の加速が予想される。

規制委は同日、沸騰水型炉(BWR)の安全審査を申請している原電など 4 社から、東海第 2 のほか東北電力女川 2 号機(宮城県)、中部電力浜岡 4 号機(静岡県)、中国電力島根 2 号機(島根県)の 4 原発の新規制基準適合審査への対応状況を聴取した。BWR は東電福島第 1 原発と同じ炉型。規制委は BWR の審査のひな型を作るため、柏崎刈羽 2 基の審査を先行してきたが、東電から耐震設計の資料準備に半年程度かかる見通しが示されたことから、審査の方針を見直すとしていた。

原電側は、東海第 2 の審査が加速する見通しになったことから、資料の作成状況について「全体として 70~80%できている。先行して行われている審査の資料も見て、充実を図っている」とし、今後の審査に十分対応できると説明した。

更田豊志委員長代理は、東海第 2 について「論点は多いが、筋が悪い(難しい)ものは見当たらない。一つ一つしっかり説明してもらえれば」と話した。

規制委によると、これまでの柏崎刈羽 2 基の審査で BWR の審査のモデルケースができていて、今後は各原発独自の課題や論点を中心に審査会合を開き、この審査と相違点がない事項は非公開のヒアリングなどで資料を確認して審査の効率化を図る。

ただ、東海第 2 はこれまで原発施設に関する審査が 5 回にとどまり、4 社より遅れているため個別の審査も行う方針。

東海第 2 の安全審査をめぐるっては、東海村議会が 3 月 24 日、審査を早急に行うこと

を国に求める意見書を賛成多数で可決。村商工会(照沼政直会長)からは同様の趣旨の請願が提出されていた。

今回の規制委の方針について、原発推進派で村議会最大会派の代表を務める村上邦男議員は「意見書は規制委の判断を受け、村の将来を早く議論したいという趣旨。意見書に沿う形になったことは良いことだ」と審査の進展に期待を寄せた。

一方、再稼働に反対する同村議会の阿部功志議員は「再稼働へ向けた材料がそろっていきようで危機感を感じる」と述べた上で、「審査は慎重に進められるべきだ」と指摘。避難計画が審査の対象外になっている点にも疑問を呈した。(高岡健作、戸島大樹)

•